

石油連盟 油流出ワークショップ2011の開催

(副題：大規模な油流出―新たなる脅威)

(報告)

2011年2月

運輸委員会

1. 石油連盟は3月2日(水)、東京で「油流出ワークショップ2011」を開催する。(場所：経団連会館2階 経団連ホール(北))
2. 大規模石油災害対応体制整備事業の一環として1995年以来毎年開催してきた国際シンポジウム(14回開催)を、2009年からはワークショップと隔年で開催することとし、今回はその2回目となる。ワークショップでは、油濁事故とその対応事例・善後策等から焦点を絞って議論と理解を深め、新しい潮流を知り、今後の対応に備える一助にしたいと考えている。
3. 最近の油濁事故の傾向として、タンカー等船舶からの油流出事故は著しい減少を見せている。そうした中で、昨年4月にメキシコ湾で発生した海底油田掘削装置の爆発、その後約3ヶ月に及ぶ海底からの原油噴出事故は流出量として米国史上最大の惨事となった。こうした掘削井からの事故は、2009年にティモール海でも発生した。また陸上においては、パイプライン等からの流出事故の増加が伝えられており、昨年中国の大連でも大きな油濁事故が発生した。
4. 上記を踏まえ、今回のワークショップでは、タンカー以外の油井、パイプラインなどの事故に焦点をあて、新たな脅威に直面した事故関係者を招聘し、事故対応の課題や問題点について披露願うとともに、会場の出席者にも質疑並びに討論参加の機会を設けてより深い理解を進め、今後の対応準備の一助としたい。
5. 講師は、海外(イギリス、米国、オーストラリア、中国)から7名の関係者・専門家に依頼した。(テーマ・講師は別紙参照)
6. 今回のワークショップは、内外の油濁担当者・専門家等に案内する予定であり、150名前後の出席を見込んでいる。

以上

国際ワークショップ・講演者等リスト
(講演のテーマは暫定的に掲示しており、変更の可能性がある)

- ・ 基調講演：マイケル・オブライエン
「新たなる地平か？タンカー以外を源とする油流出への取り組み」
国際タンカー船主汚染防止連盟（ITOPF）チーフ・アドバイザー
- ・ ニック・ハズレット・ベアード
「タンカー以外からの油流出への備え」
OSRL 防除部長
- ・ アラン・アレン
「メキシコ湾 DWH 流出事故時の制御燃焼の実施」
スピルテック代表
- ・ エド・オーエンス
「メキシコ湾 DWH 流出事故時の海岸線対応に伴う難題」
ポラリス・アプライド・サイエンス代表
- ・ トビー・ストーン
「マンタラ油田プラットフォーム油流出対応の教訓と今後への提言」
オーストラリア海上保安庁（AMSA）海洋環境部長
- ・ グァン・ヨンイ
ハン・ジュンソン
「中国大連における「7.16 事故」清掃活動のレビューと評価」
中国海上保安庁遼寧省危険貨物管理・汚染対策部 課長および同補佐

以上